



町田薬師池公園

Photo by M.K

■参議院選挙で郡山りょう見事議席獲得!!

7月20日に実施された第27回参議院議員選挙でJAM組織内候補「郡山りょう」が当選し、JAMの悲願であった国政への議席回復を12年振りに果たすことができました。本人の強い意志に加え、現役労組及び私たちシニアクラブ会員一人一人の絶大なる支援・協力の賜物と思います。

▼ さて、今月この紙面を担当する私、菊池は野鳥撮影を趣味としています。皆様の中にも野鳥撮影を趣味とされる方もおられる事と思いますが、ここに私の取組みの一端を紹介させていただきます。

▶ 今は夏真っ盛りで、野鳥撮影で炎天下に長居することはとても出来ません。活動するのは秋～冬が主になるでしょう。これから野鳥撮影をしてみようとする方は活動するための情報を今のうちから集めておくと良いと思います。

様々な野鳥が見られるのは、やはり冬です。ユーラシア大陸・シベリアから越冬のため南下してくる野鳥が多くみられます。

▶ 下左の写真はカムリカイツブリで、頭に冠を被った姿が特徴です。新横浜駅近くの新横浜公園で今年撮影しました。下右の写真は、羽衣が巫女の白装束のように見えることに由来するミコアイサ。

小田原城のお堀
で撮影しました。

このように、野鳥撮影と言っても山などに出掛けなくても、多くの鳥たちが近くの公園にやってくるので、アンテナを高くして情報をキャッチします。

▶ 野鳥の中でも人気があるのは、やはりカワセミです。漢字で翡翠とも書き、多くの人が水のきれいな清流



に住むと思っておられるようですが、実際には街中の公園でもあちこちで見られます。またカワセミは「留鳥」と言って季節による移動をしない鳥なので、年間を通して見ることができるのも人気の要素となっています。インターネットで「カワセミスポット」と検索するといくつものサイトを見ることができます。

皆様も近くのスポットを検索して出かけてみましょう。大きな長いレンズが付いたカメラを構え狙いを定めている人が集まっていると思います。

▶ 巻頭の写真は町田市の薬師池公園で一昨年秋に撮影したものです。真夏の今、この池にはハスの花が咲き、カワセミにしてみると食事場所が狭められて邪魔に感じているかもしれませんが・・・。

カワセミは自分の巣やそれぞれお気に入りの場所を移動しているので、写真に捉えるまでには辛抱強く待つ必要があります。そして、動きの速いカワセミの「お魚ゲット」の瞬間をカメラに捉える事ができれば超 Lucky! というところです。

皆様もチャレンジしてみてください。

【シニアクラブ幹事 菊池正範】



■ 第27回参院選「比例区」結果を見て

参院選比例区の得票数は、候補者名が書かれたものと政党名のみが書かれたものの合計で示されます。その合計数からドント方式で政党ごとの当選者数が決まり、候補者名の記載が多かった人から順に当選が決定します。

自民党で900万票以上、Top3の野党も600万票以上が政党名の記載で、氏名記載はわずかでした。この政党名の票からできるだけ多く配分を受ける為にも本人記載の票が重要です。

「郡山りょう」と記載された票は 94,610 票で、立民の6番目となり当選が決まりました。



	得票数	得票率	当選	前回
自民	12,808,306	21.64%	12	18
国民	7,620,492	12.88%	7	3
参政	7,425,053	12.55%	7	1
立民	7,397,456	12.50%	7	7
公明	5,210,569	8.80%	4	6
維新	4,375,926	7.39%	4	8
れいわ	3,879,914	6.56%	3	2
保守	2,982,093	5.04%	2	-
共産	2,864,738	4.84%	2	3
みらい	1,517,890	2.56%	1	-
社民	1,217,823	2.06%	1	1
他	1,885,136	3.19%	0	1
合計	59,185,396	100%	50	50

投票率: 58.51% (前回 2022 年: 52.04%)

政党別得票数が国民の支持傾向を示しています。ここから私、田代の思うところを記します。

1. 最近の国内外の厳しい諸情勢に対する石破政権の対応に厳しい逆風が吹いたとなるが、選挙戦を見るに自公与党に比べて今回議席を伸ばした国民、参政には若さを感じる。マンネリ化を感じる国政の場に新風をおこし若返りが必要なのではないか。
2. テレビなどのオールドメディアではなく、SNSを通して得た情報で政治に関心を持つ若い世代が増え、投票率も上がり、投票先も変化した。
3. 野党 Top3の得票数を加えると自民の2倍にもなるが、主義主張は一樣ではなく、誰もまとめられない。「政権交代」を訴える立民に対しては今回の選挙結果を見る限り国民の支持はそれほど伸びていない。
4. 自民党内では「石破おろし」が渦巻いているようだが、与党支持者には「続投」を望むほうが多いと聞く。これは国民の声を聴いていない現れそのものである。
5. 参政、れいわそれぞれの立ち位置は違うが、はっきりものをいうことで夫々の国民の支持を得た。政治は有言実行が大切であり、実行力が今後問われる。

皆さんのお考えはいかがでしょうか。

■ 立候補する政党について

3年ごとに半数改選となる参議院ですが、連合傘下の大手の構成組織では組織内候補を擁立して選挙戦を戦ってきています。

JAMは連合傘下の組織としては5位の人数を占める大きな組織です。6位の基幹労連とともに3年ごとの選挙で交互に組織内候補を擁立し、何回も組織の仲間を国政に送り込んできました。2つの組織人数を合わせると4位の電機連合を超えます。
https://www.ituc-rengo.or.jp/about_rengo/data/kouseisoshiki_ichiran.pdf

しかし前々回、2019年の選挙ではJAMが候補を立てて国民民主党から出馬しましたが当選を果たすことができませんでした。前回、2022年の参院選では基幹労連組織内の「村田きょうこ」候補が立憲民主党から出馬して当選を果たしています。

連合が支援する政党は立憲民主党、国民民主党ですが、前回までの比例区選挙では前者は7名、後者は3名の当選枠を確保しており、同じ票数を得たとしても出馬する政党によって当落が分かれてしまいます。ここに「仲間を国政の場に！」とする選挙戦略があります。

今回は国民民主党が多くの票を得て、7名の当選枠を確保しましたが、これからの政治動向が順風なのか逆風となるのか不明です。今後、政党の離合集散があるかもしれません。投票する私たちにとって、政党選択は重要な判断項目となりますが、国政に直接通じる仲間を持つことも重要です。

本件、ご理解いただきこれからも引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

■ Online 会合報告 (2025. 07. 28)

シニアクラブHPに載っている「ビクター栄光の記録」の中から、講談「テレビの祖・高柳健次郎」を再生。
<http://jvc-senior.com/page3.html>
その後、今回の参院選の結果などについて意見交換。参加者は5名。別途報告書はありません。



■ 事務局から

- ・ 今回のお便りは選挙特番の如くになってしまいましたが、ご了承ください。写真は郡山りょう氏と安河内賢弘JAM会長です。ご支援ありがとうございました。
- ・ シニアクラブは新年度の活動に入りました。総会を10月25日(土)午後、三田の友愛会館で開催します。詳細は8月下旬にご案内しますので、予定を入れておいてください。

事務局長 田代 周